

農業高校の甲子園で日本一！

～鈴木海心さん（下関）が全国大会最優秀賞～

「農業高校の甲子園」と呼ばれ、生徒たちが知識や技能を競う「第68回日本学校農業クラブ全国大会」が10月25、26日に岡山県で開催され、新発田農業高校3年鈴木海心さん（下関）が農業鑑定競技会の農業分野で全国1位となる最優秀賞に輝きました。

農業鑑定競技会とは、日頃学習で得た農業に関する知識や技術の成果を、鑑定、判定、診断、審査技術にわたり、そ



▶最優秀賞が発表され、スクリーンに映しだされる鈴木さん

の実力を競い合います。出題数は40問で、農業生物、種子、肥料、機械器具などを20秒または40秒というわずかな時間で鑑定、判定し、その正答率を競います。

農業が楽しいという鈴木さんは、県大会を終えてから1日も休まず勉強をつづけました。その努力が実を結び、初出場の全国大会で、最優秀賞という快挙を成し遂げました。

鈴木さんは「全国の舞台と雰囲気緊張で手が震えたけど、仲間とやれることは精一杯やってきたという自信があった。名前を呼ばれてスクリーンに映し出された時は、嬉しくて興奮して声が出た。これからまだまだ知らない新しい農業をたくさん学んで、目標に向かっていきたい」と話してくれました。

卒業後は、すでに農業大学校に進学することが決まっており、将来、関川村で農業法人を立ち上げるという目標に向かって、さらに農業を極めます。

発光パターンの境界は荒川沿い！

～関川小4年生ホタル学習会～

11月7日、昨年からホタルの生態について学習を続けている関川小学校の4年生が、ホタルの里として有名な村上市河内集落にホタル学習会に出かけました。河内集落は、源氏ボタルの発光パターンとして区分される東日本型（遅い）と西日本型（速い）の両方みられる場所として有名です。

この日は、県のホタル保護指導員の中村則彦さんや河内集落の斎藤区長さん、地域おこし協力隊の太田嘉和さんがホタルの生態や環境づくり、魅力について教えてくれました。

中村保護指導員から、「今まで、発光パターンの境界は、糸魚川静岡フォッサマグナと言われていたが、調べると荒川沿いが境界ということがわかってきた」と説明を受けると児童は驚いている様子でした。学習を終えた佐藤伶音さん（中東）は、「ホタルの住んでいる場所で、光り方が違うことが不思議に思った」と、さらなる学習動機が芽生えていました。



生きる環境を守る大切な森林

～10月28日 森林組合間伐講習会～



関川村森林組合では、昨年のチェーンソーの目立て（刃を研ぐこと）講習会に引き続き、実際に伐採作業を行う間伐講習会を開催しました。

講師の村上地域振興局林業振興課富樫林業普及指導員が「間伐には山の手入れと収入という側面があり、最終的な森林の姿へ近づくためのとても大切な作業である」と間伐の必要性を説明し、間伐の種類や目安、山の見方の講義を行いました。

現地では、参加者が実際に選木作業を行い、樹高や木と木の距離を測り、密度などを考えながら伐木する木に目印をつけていきました。最後には森林組合職員の指導で、実際にチェーンソーによる伐木を行いました。

参加者の高橋信一さん（大石）は、「今まではもったいなくて、曲がっていたりするのばかりを選木していた。山の姿を考え、良い木を育てて、山を守っていきたい」と話していました。

優しさシャワーをそそぐ！ 認知症研修会

11月13日、認知症の方を介護する大変さや認知症に向き合う不安などを正しく理解してもらおうと、「認知症のひとと家族の会新潟県支部」の等々力務副代表を講師に招き、の～むで研修会を開催しました。会場には、認知症について学ぼうと120人を超える参加者が集まりました。

研修会では、在宅介護のポイントや地域全体で支えることの大切さなど、介護家族のエピソードを交えて分かりやすい説明がありました。認知症の人への関わり方では、優しさをシャワーのように注ぐ接し方が大切で、“よく話を聞く、積極的に笑顔で話しかける、一緒に笑う、よく褒める、優しく触れる、自分が大切に思われていることを相手に伝えるようにする”の優しさシャワーにより、不安な気持ちや寂しさの解消につながると話していました。

参加した男性は、「大変参考になった。取り組むには難しいと思うこともあったが、もっと勉強したいと思った」と話していました。



新潟県知事表彰を受賞

伊東ヤイ子さん（下関）



この度、長年にわたり食生活改善推進員として、健康づくりの普及向上に積極的に取り組んだとして、伊東ヤイ子さんに新潟県知事から県知事表彰が贈られました。

表彰式は、11月1日、県食生活改善推進委員協議会創立50周年記念大会で行われ、県内から76人、1団体が表彰され、県知事表彰には3名が選ばれました。

伊東さんは、「この賞が受賞できたのも、現在活動している会員や長年活動してくださった先輩会員のおかげだと思います。県内の会員のみなさんとも、おつき合いが出来たことは勉強になりました。50周年という記念大会で表彰していただき、本当にうれしく思っています。今後も村民の皆さんの食生活の改善を支援していきたいです」と受賞の喜びを話してくれました。

1点差に涙！ウインターカップ出場を逃す

18歳以下日本代表 伊藤 領選手



▲帝京長岡高校との決勝戦でジャンプシュートを決める伊藤領さん

11月3日、全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会（通称ウインターカップ）新潟県予選決勝戦が行われました。18歳以下日本代表にも選出されている開志国際高校3年の伊藤領さん（辰田新）が出場し、36得点をあげる大活躍をみせましたが、帝京長岡高校に1点及ばず67―68で敗れ、全国大会出場はなりませんでした。

伊藤選手が左足首のケガで交代すると、チームは逆転を許してしまいます。しかし第3Q、コートに戻った伊藤選手は、立て続けに得点をあげ、ブロックショットにアシストと会場の視線を釘付けにします。1点ビハインドの第4Q残り0.4秒、開志国際高校ボールとなり、1プレイに逆転が期待されましたが、シュートは決まらず、タイムアップとなりました。

伊藤領さんは、「今回は、残念な結果でしたが大学ではこの経験を活かしてがんばりたいです」と次の舞台での抱負を語ってくれました。